

## 第7章 青少年の意識

### 1 青少年の意識に関する調査について

県の施策を推進し、県民の自主的活動の有効な展開を図るためには、青少年問題に関する県民の理解と市町村等関係機関の協力が必要である。

このため、県では、青森県青少年健全育成条例に基づく青少年行政基礎調査事業の一つとして「青少年の意識に関する調査」を隔年で実施し、その結果を県民に明らかにするとともに、市町村等関係機関に情報提供している。

#### (1) 調査の目的

本県における青少年の意識や行動を把握して、青少年に関する施策の総合的な推進のための基礎資料を得るとともに、調査結果を広く県民に紹介することにより、青少年の健全育成に対する理解と協力を得る。

#### (2) 調査の方法

質問紙とインターネットの併用による無記名調査

#### (3) 調査の対象

県内の小学校6年生	384人(16校)
県内の中学校2年生	380人(16校)
県内の高等学校2年生	354人(12校)
合計	1,118人(44校)

#### (4) 調査の実施期間

令和4年8月から令和4年9月まで

#### (5) 調査項目

- ① 地域のこと
- ② 学校のこと
- ③ 家族・家庭のこと
- ④ 自分のこと
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症流行下の心の状態
- ⑥ メディア・コミュニケーションのこと
- ⑦ 読書のこと
- ⑧ 世の中のこと
- ⑨ 就労に関する意識
- ⑩ 社会の価値観の変化に対する意識

#### (6) 調査実施主体

青森県環境生活部 青少年・男女共同参画課

#### (7) 調査の監修

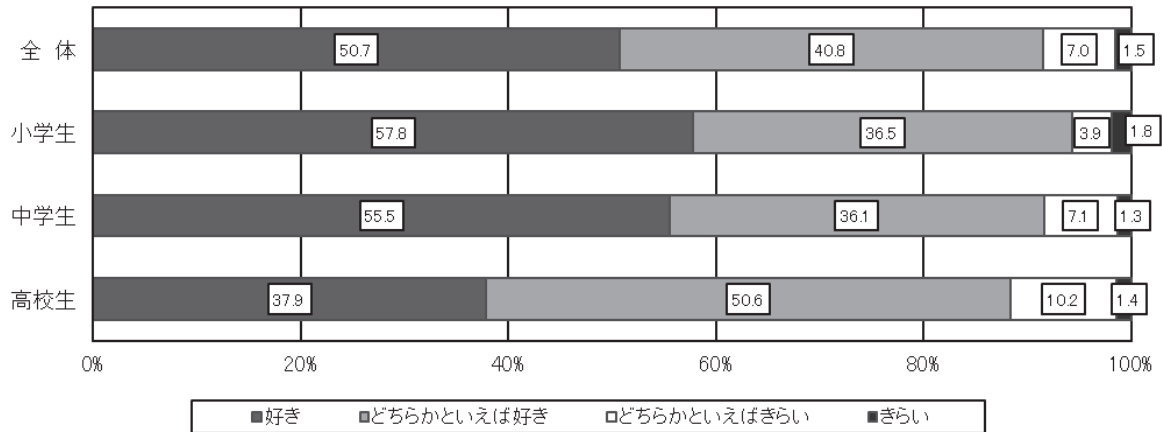
弘前大学教育学部 教授 田名場 忍 氏

## 2 結果概要（単純集計）

### (1) 地域のこと

自分が住んでいる地域が好きかどうか尋ねたところ、全体では、91.5%が「好き」「どちらかといえば好き」と回答している。

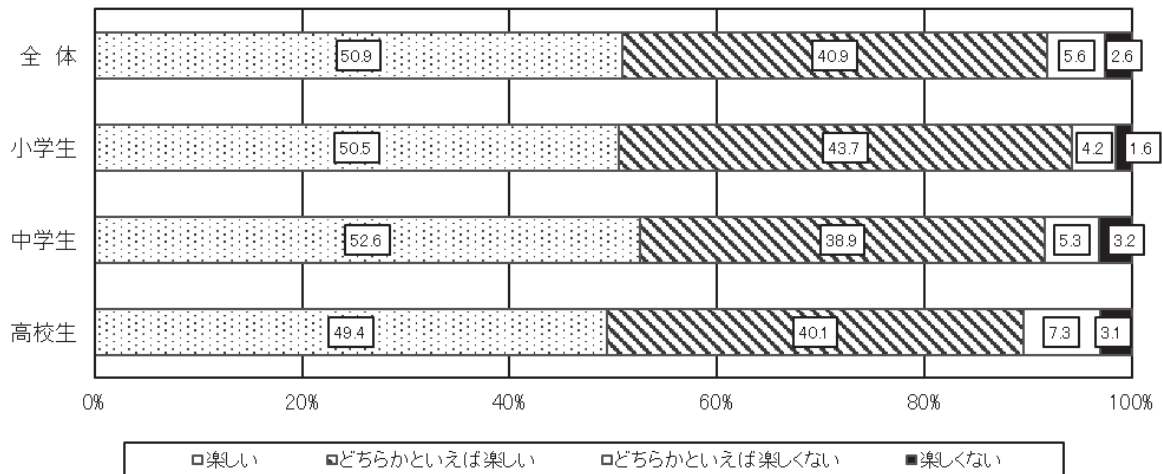
第1-7-1図 住んでいる地域への評価（N=1,118）



### (2) 学校のこと

学校生活が楽しいかどうか尋ねたところ、全体では、91.8%が「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答している。

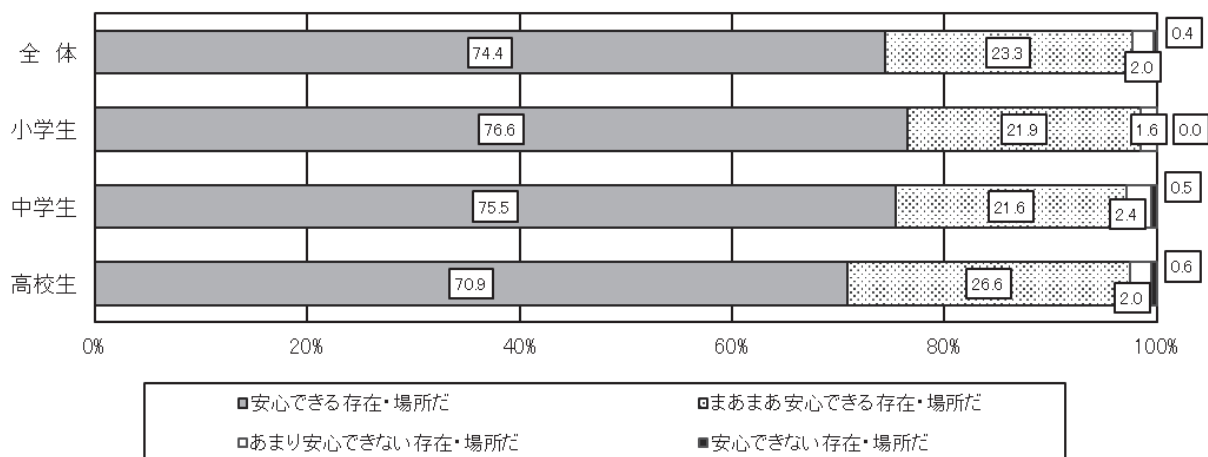
第1-7-2図 学校生活への満足度（N=1,116）



### (3) 家族・家庭のこと

家族・家庭が安心できる存在・場所かどうか尋ねたところ、全体では、97.7 %が「安心できる存在・場所だ」「まあまあ安心できる存在・場所だ」と回答している。

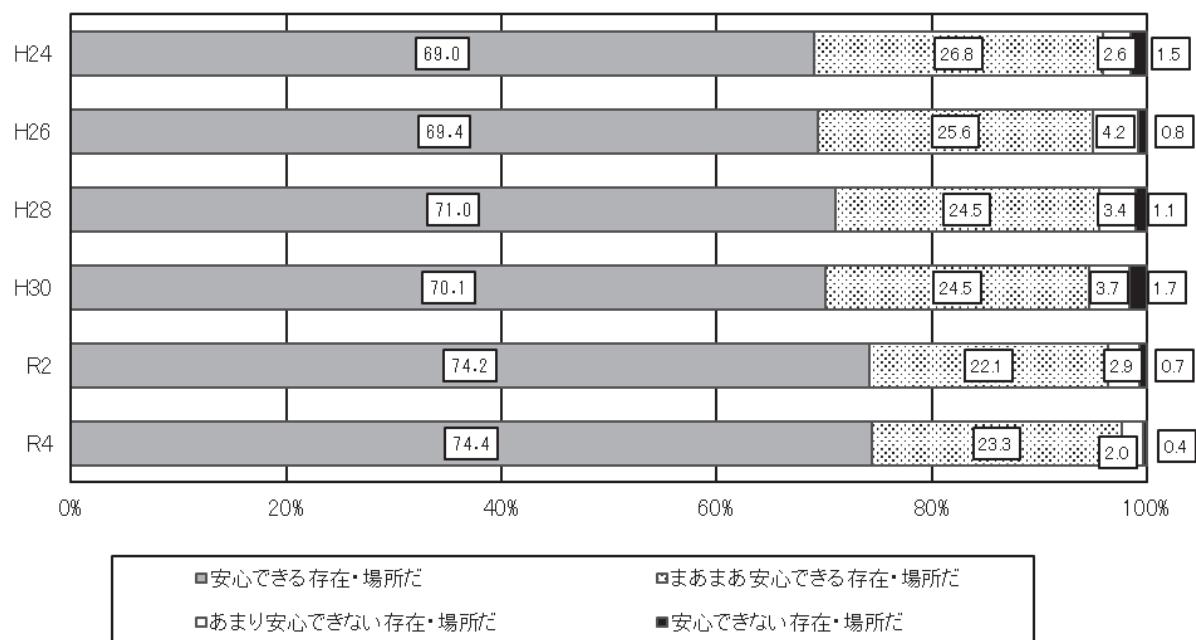
第1-7-3 図 家族・家庭への評価 (N=1,117)



(経年変化)

「安心できる存在・場所だ」「まあまあ安心できる存在・場所だ」について、過去の調査と比較すると、やや増加している。

第1-7-4 図 家族・家庭への評価 (経年変化)

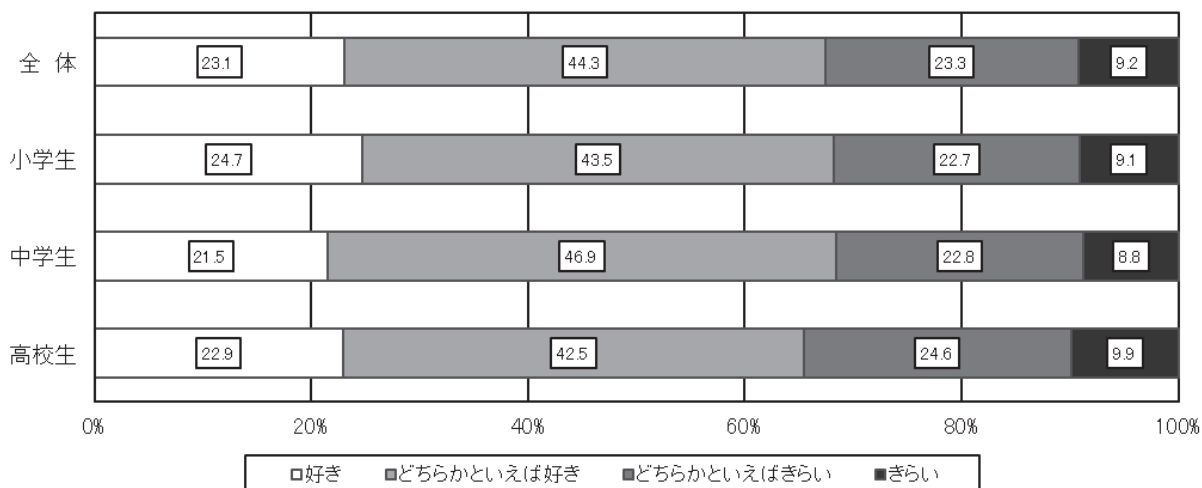


#### (4) 自分のこと

##### ア 自己への評価

自分のことが好きかどうか尋ねたところ、全体では、67.4%が自分のことを「好き」「どちらかといえば好き」と回答している。

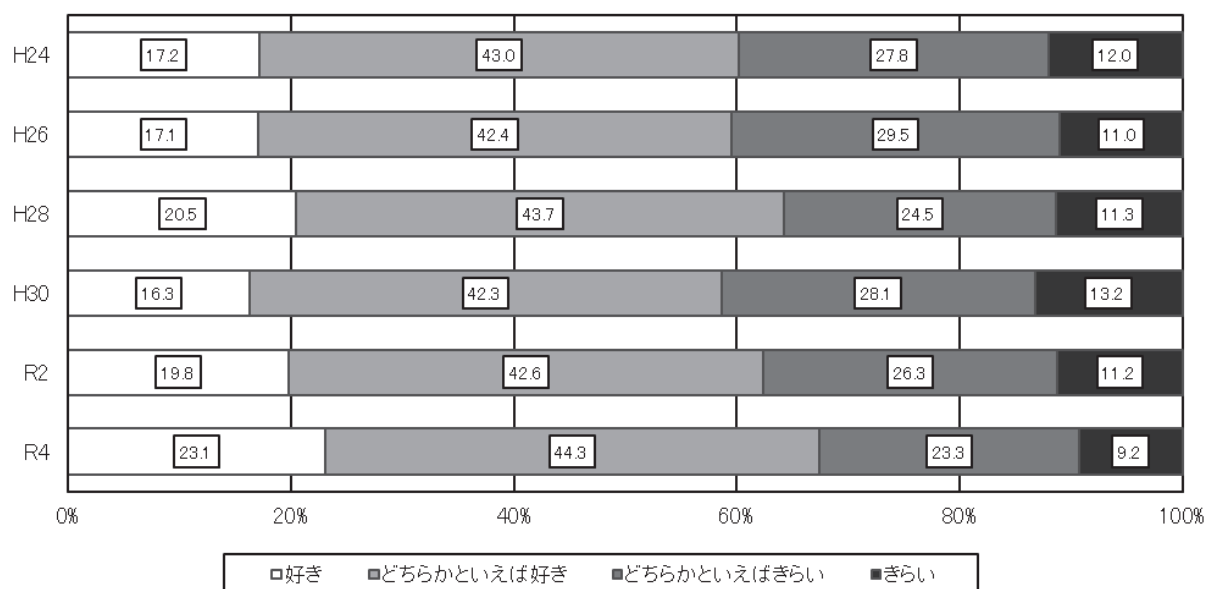
第1-7-5図 自己への評価（N=1,114）



##### (経年変化)

「好き」「どちらかといえば好き」については、平成24年度以外は60%前後で推移しているが、令和4年度は、令和2年度から5ポイント増加して67.4%となっている。

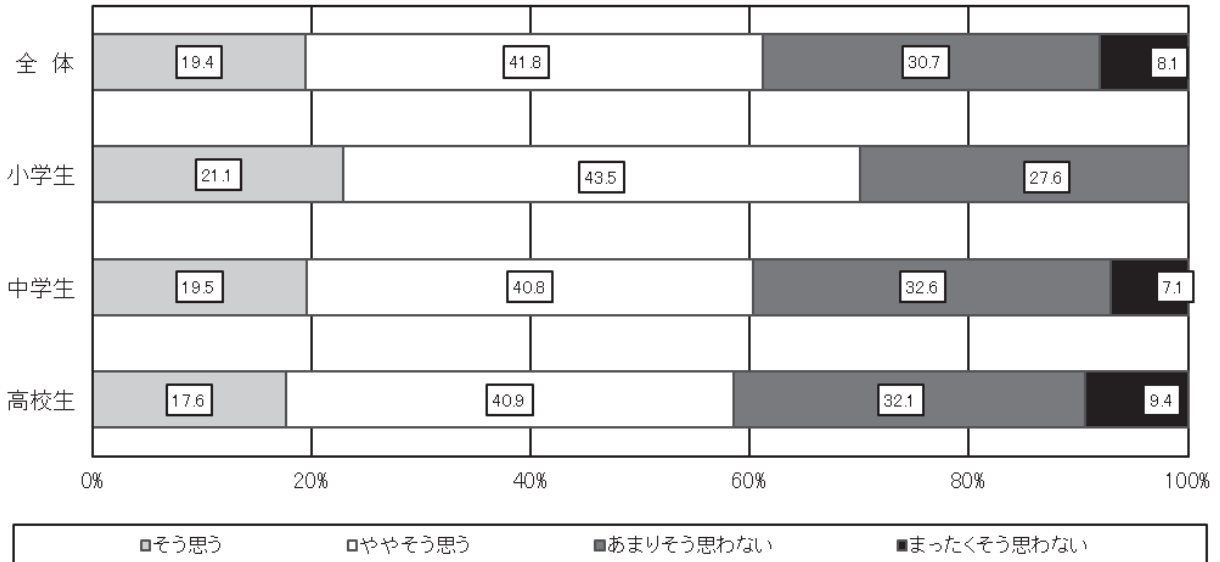
第1-7-6図 自己への評価（経年変化）



イ 家族や社会への関わりについて

世の中の役に立っていると感じるかについて尋ねたところ、「ややそう思う」が41.8%で最も高い。「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は、61.2%となっている。

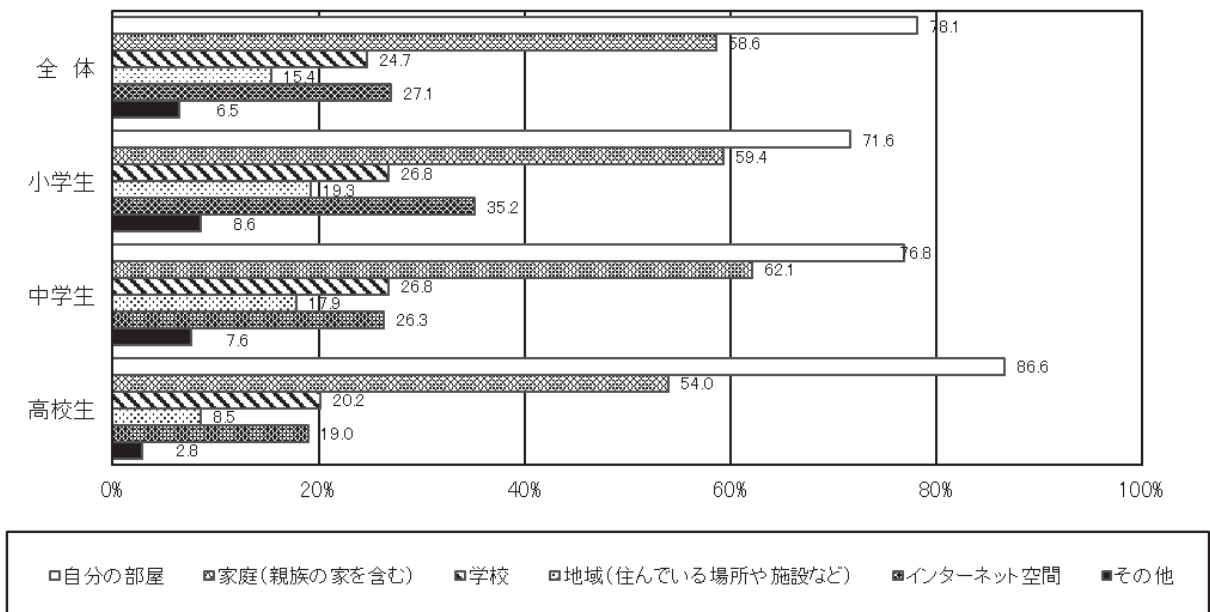
第1-7-7図 自分は社会の役に立っているか (N=1,116)



ウ 居心地のいい場所

居心地のいい場所について尋ねたところ、「自分の部屋」が78.1%で最も高く、以下、「家庭（親族の家を含む）」（58.6%）、「インターネット空間」（27.1%）の順となっている。

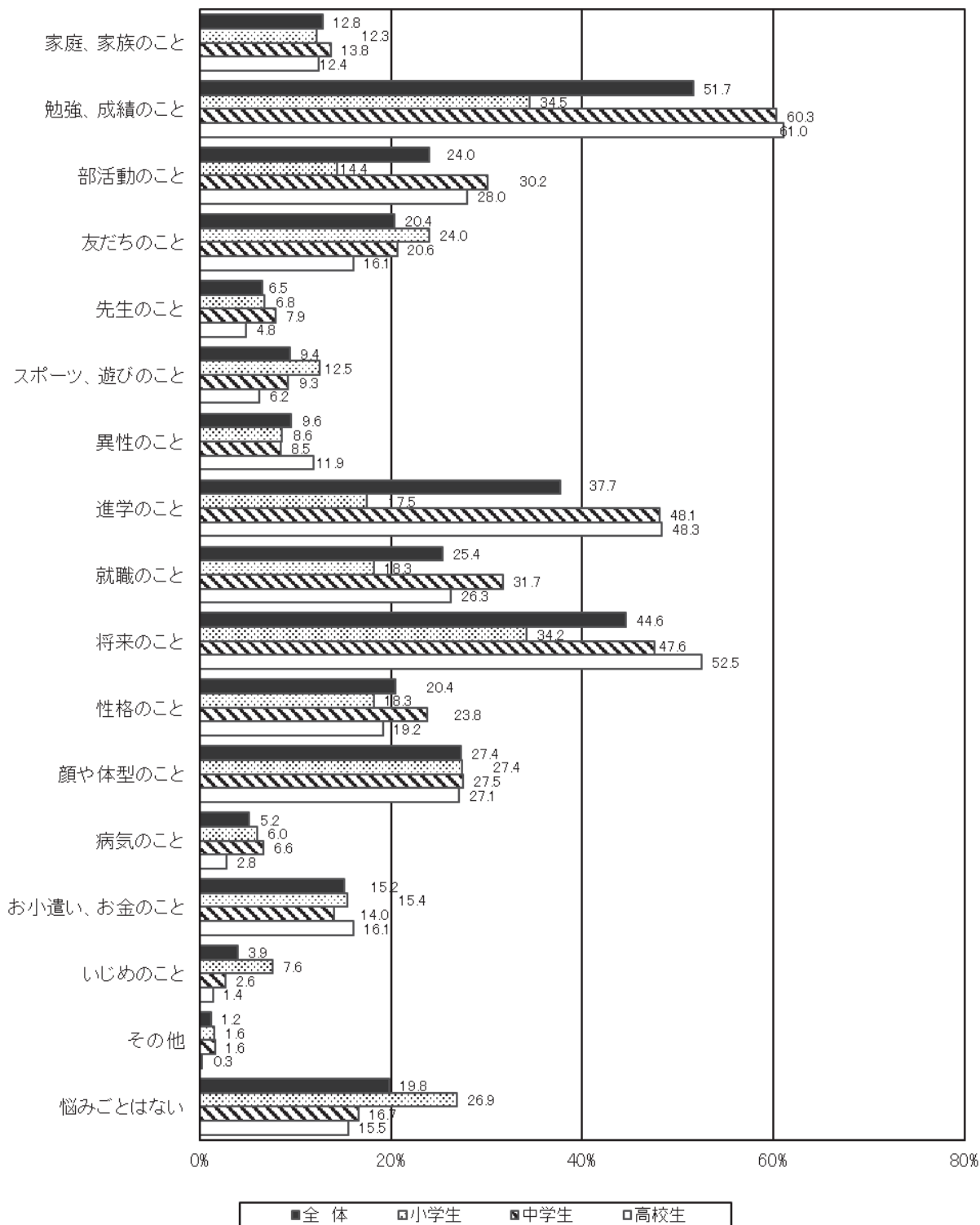
第1-7-8図 居心地のいい場所 (N=1,116)



エ 悩みごと

悩みごとについて尋ねたところ、「勉強、成績のこと」が 51.7%で最も高く、以下、「将来のこと」(44.6%)、「進学のこと」(37.7%) の順となっている。

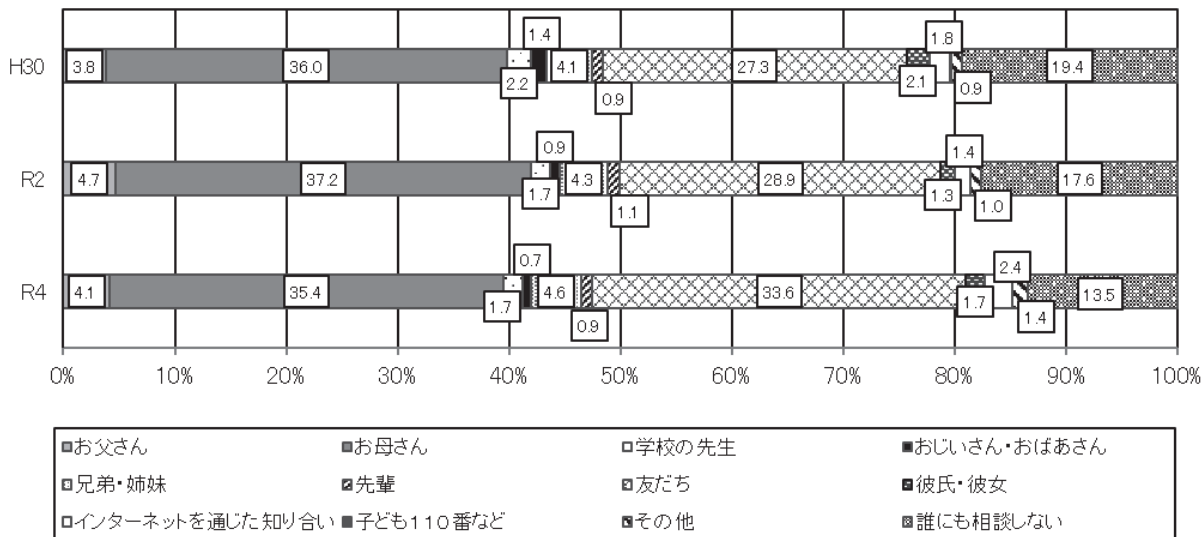
第 1-7-9 図 悩みごとについて (N=1,115)



オ 悩みごとの相談相手

いろいろなことを相談する相手は誰かについて尋ねたところ、「お母さん」が35.4%で最も高く、以下、「友だち」(33.6%)、「誰にも相談しない」(13.5%)の順となっている。

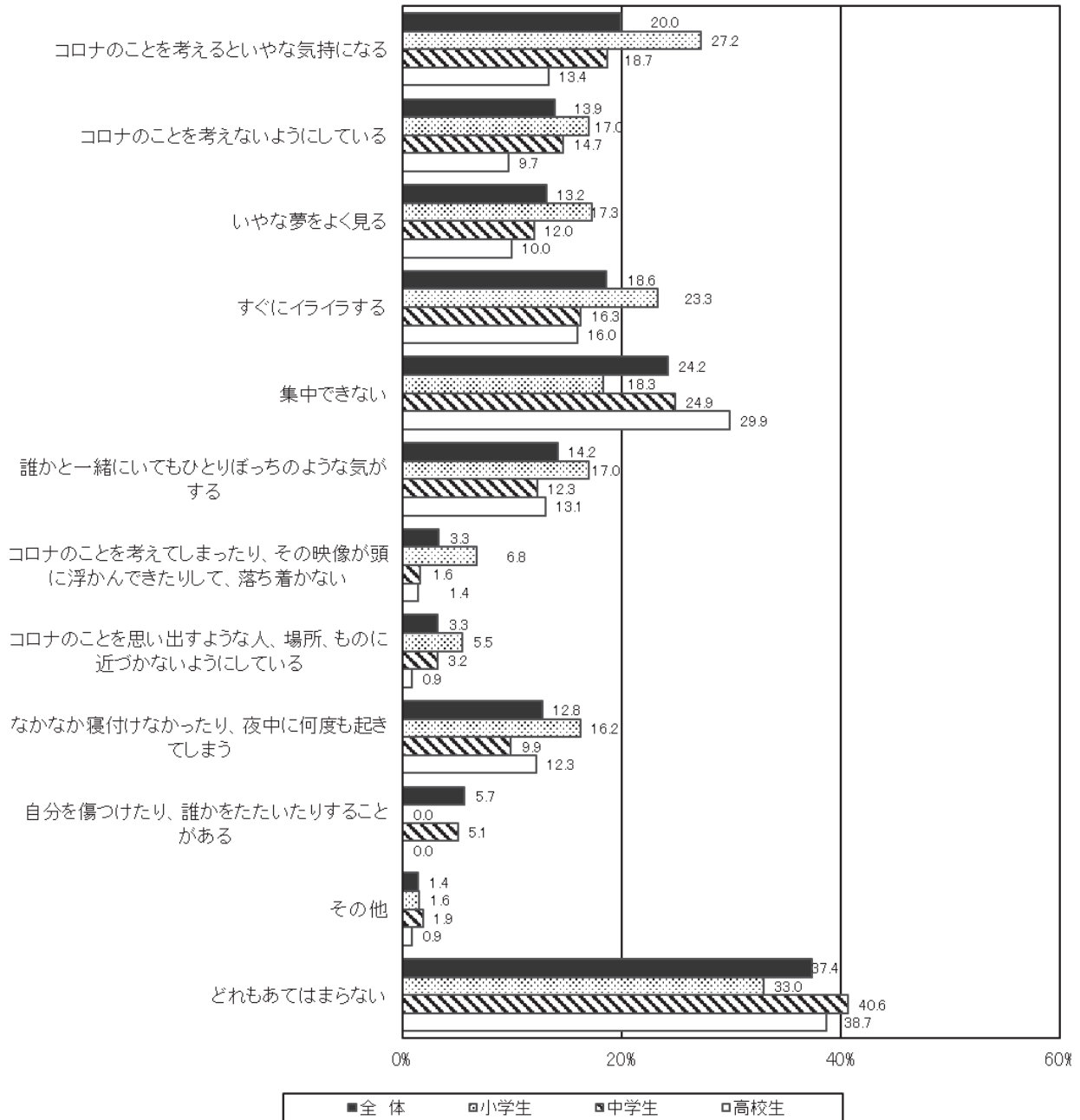
第1-7-10図 いろいろなことの相談相手 (N=1,069)



(5) 新型コロナウイルス感染症流行下の心の状態

最近の心の状態について尋ねたところ、「どれもあてはまらない」が 37.4%で最も高く、以下、「集中できない」(24.2%)、「コロナのことを考えるといやな気持ちになる」(20.0%) の順となっている。

第 1-7-11 図 最近 1 か月の心の状態 (N=1,107)



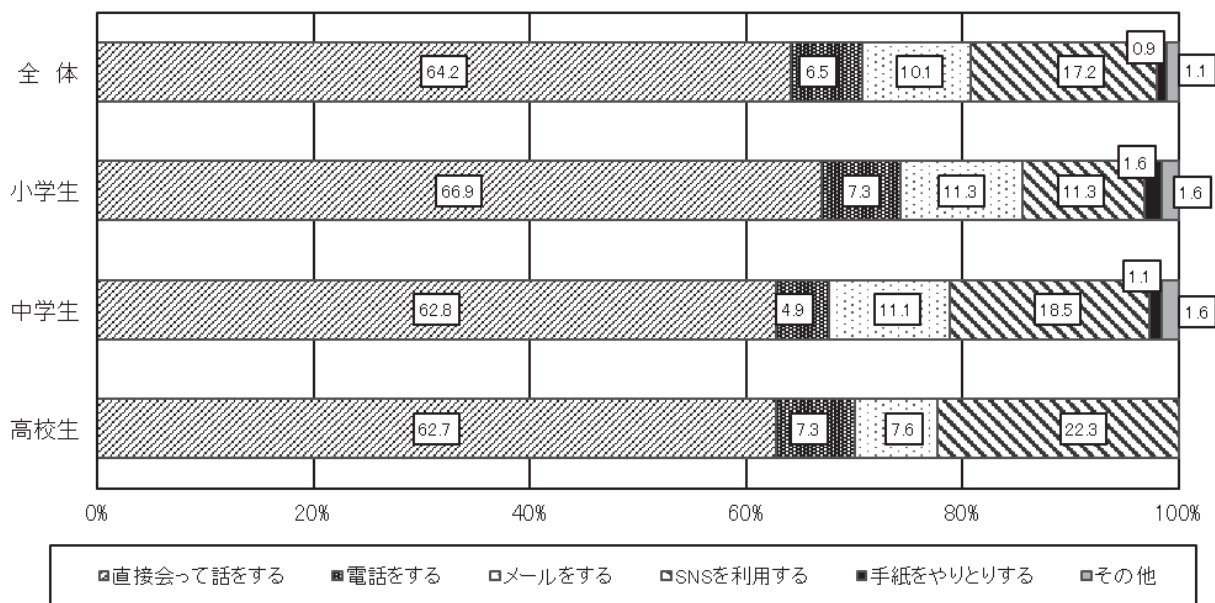


(6) メディア・コミュニケーションのこと

ア 友だちとのコミュニケーション方法

友だちとのコミュニケーション方法について尋ねたところ、「直接会って話をする」が64.2%で最も高く、以下、「SNSを利用する」(17.2%)、「メールをする」(10.1%)の順となっている。

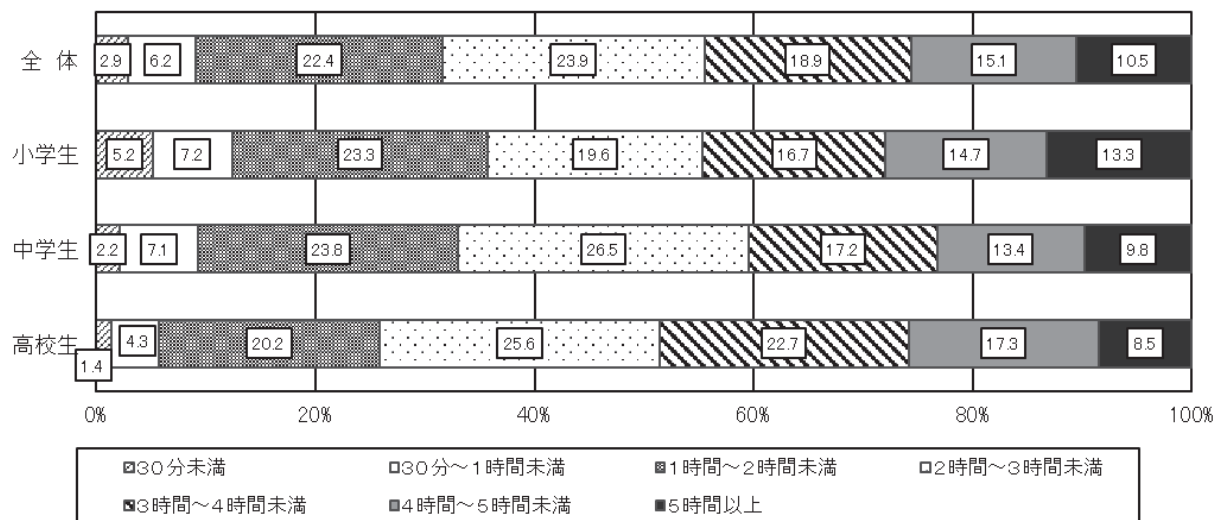
第1-7-12図 友達とのコミュニケーション方法 (N=1,103)



イ インターネットの利用時間

インターネットの利用時間を尋ねたところ、「2時間～3時間未満」が23.9%で最も高く、以下「1時間～2時間未満」(22.4%)、「3時間～4時間未満」(18.9%)の順となっている。

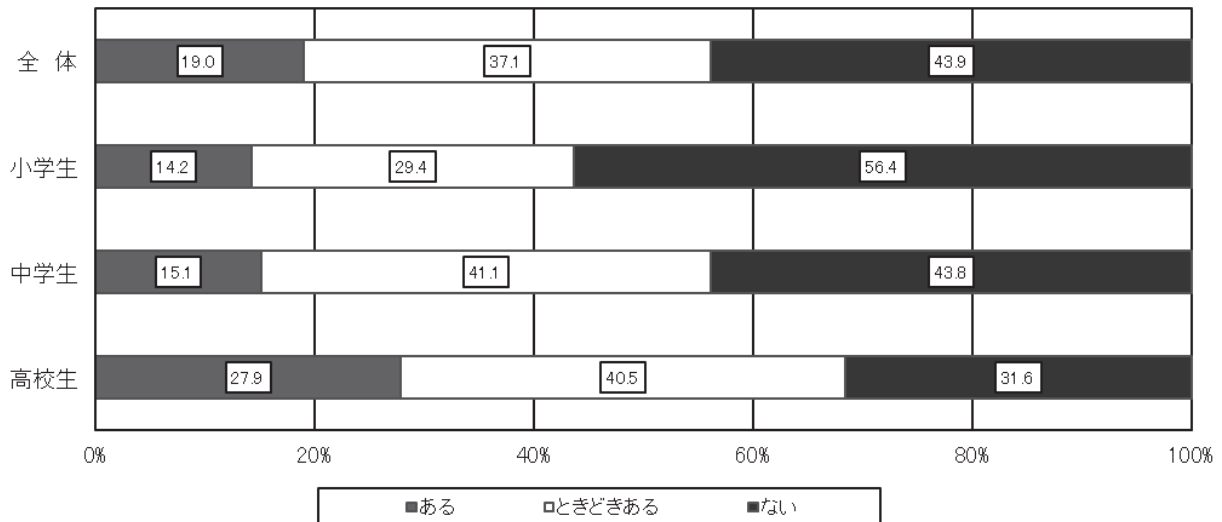
第1-7-13図 インターネットの利用時間 (N=1,065)



ウ インターネット利用の悪影響

インターネットにのめりこんで、勉強に集中できなかつたり、睡眠不足になつたりしたことがあるかどうか尋ねたところ、「ない」が43.9%と最も高い一方、「ある」「ときどきある」を合わせると56.1%と半数を超えている。

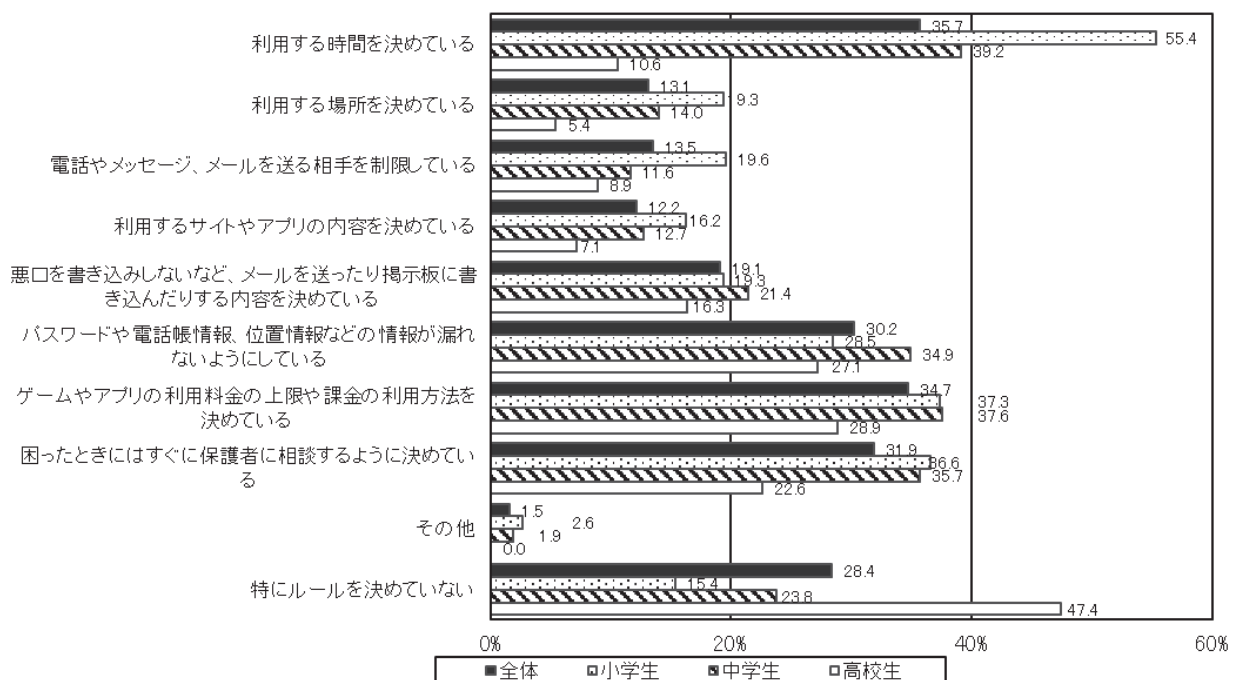
第1-7-14図 インターネット利用の悪影響 (N=1,057)



エ 家庭でのインターネット利用ルール

家庭でのインターネット利用のルールを尋ねたところ、「利用する時間を決めている」が35.7%で最も高く、以下、「ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法を決めている」(34.7%)、「困ったときはすぐに保護者に相談するように決めている」(31.9%)の順となっている。

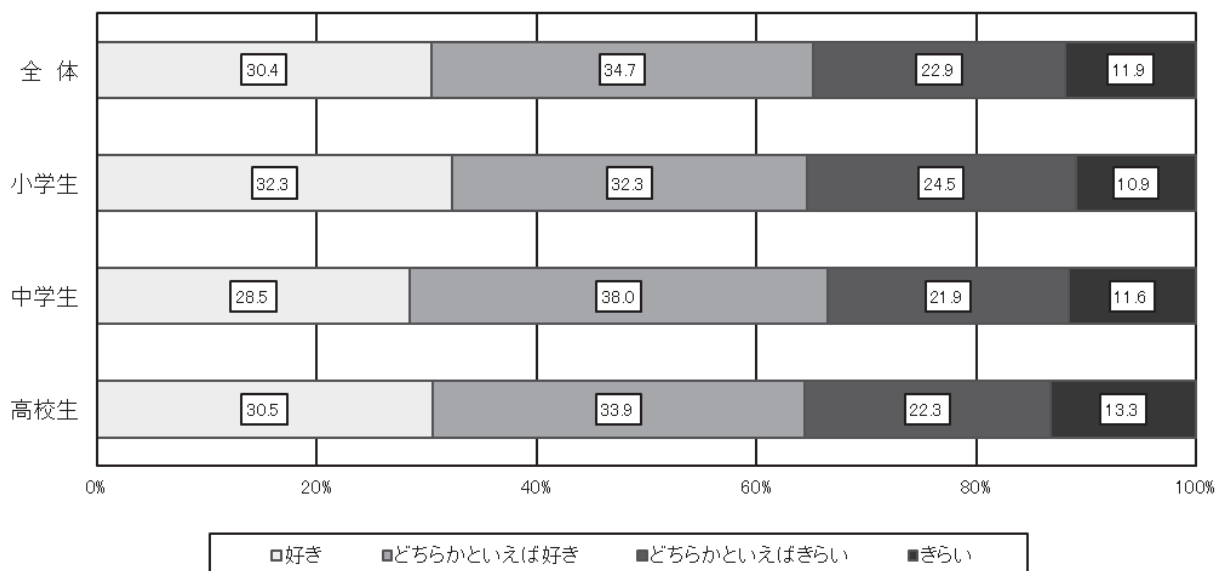
第1-7-15図 家庭でのインターネット利用ルール (N=1,111)



## (6) 読書のこと

読書が好きか尋ねたところ、「どちらかといえば好き」が34.7%と最も高い。「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた『好き』は、65.1%となっている。

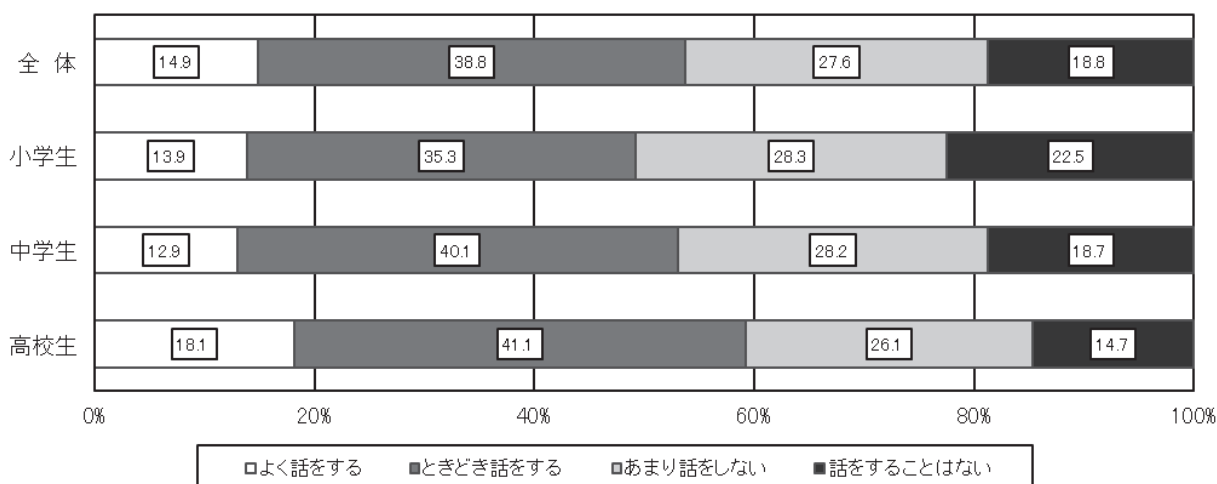
第1-7-16図 読書への評価 (N=1,117)



## (7) 世の中のこと

世の中の出来事について家族や友だちなどと話することはあるか尋ねたところ、「ときどき話をする」が38.8%で最も高い。「よく話をする」と「ときどき話をする」を合わせた『話をする』は53.7%となっている。

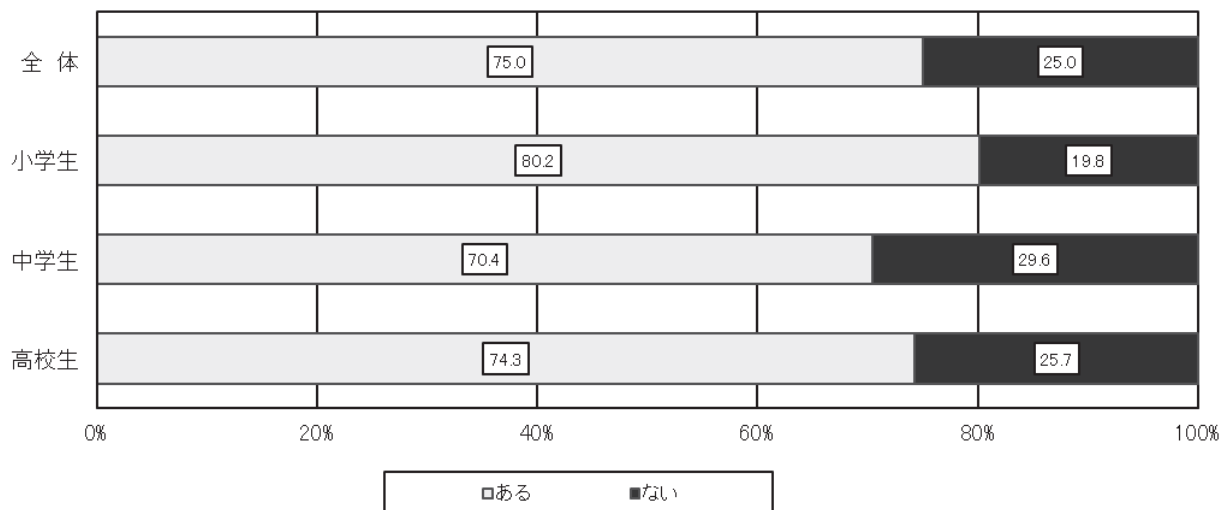
第1-7-17図 世の中の出来事についての会話 (N=1,114)



### (8) 就労に関する意識

将来したい仕事やつきたい職業があるかどうかを尋ねたところ、「ある」が75.0%となっており、「ない」(25.0%)よりも50.0ポイント高い。

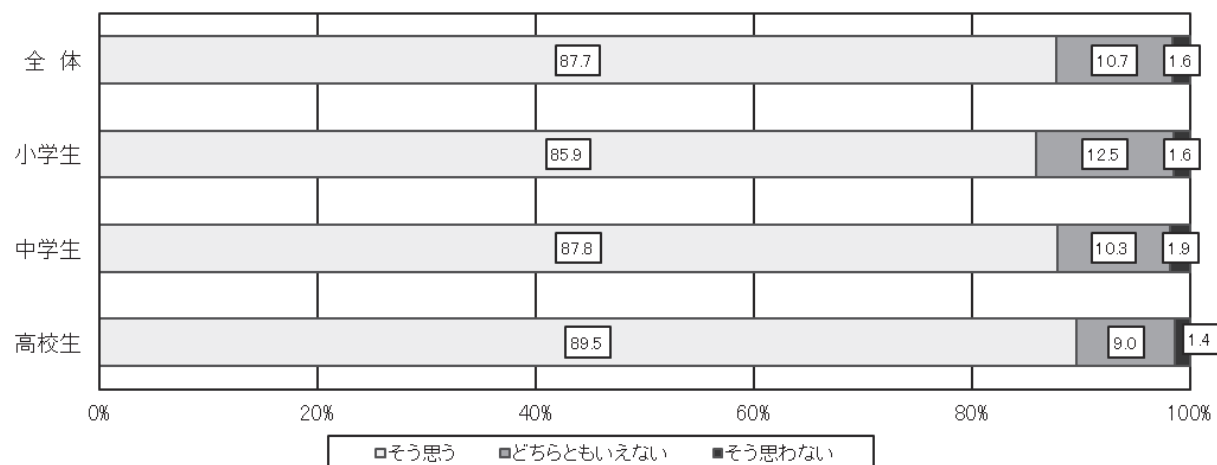
第1-7-18図 将来の就労意識 (N=1,116)



### (9) 社会の価値観の変化に対する意識

男の人でも女の人と同じように、家事や育児や介護をするべきかどうか尋ねたところ、「そう思う」が87.7%で最も高い。

第1-7-19図 男性でも女性でも、家事や育児や介護をするべき (N=1,114)



### 3 結果概要（クロス集計）

#### (1) 「居心地のいい場所の数」と「自己への評価」の関係

居心地のいい場所の数が多い子どもは、自己肯定感が高い傾向にある。

第 1-7-20 図 「居心地のいい場所の数」と「自己への評価」の関係

